



# 2017年2月期 (2016年3月1日～2017年2月28日) 決算説明会

**わらべや日洋ホールディングス株式会社**  
(2918)

2017年4月18日



# 2017年2月期業績報告 および2018年2月期業績予想



# 2017年2月期連結業績

(単位:百万円)

	2016.2期	2017.2期		前期比	修正予想比
	実績	修正予想 (2016.10公表)	実績		
売上高	209,147 (100.0)	215,000 (100.0)	<b>214,305</b> <b>(100.0)</b>	5,158 <2.5>	△694 <△0.3>
営業利益	3,088 (1.5)	3,700 (1.7)	<b>4,099</b> <b>(1.9)</b>	1,011 <32.8>	399 <10.8>
経常利益	3,336 (1.6)	3,950 (1.8)	<b>4,304</b> <b>(2.0)</b>	968 <29.0>	354 <9.0>
当期純利益 (当社株主に帰属)	1,428 (0.7)	1,800 (0.8)	<b>2,281</b> <b>(1.1)</b>	852 <59.7>	481 <26.7>
EPS(円) (当社株主に帰属)	81.34	102.63	<b>130.09</b>	48.75	27.46
ROE(%)	3.5	—	<b>5.4</b>	1.9pt	—

\* 2016.2期実績に特別損失として、減損損失18億円を計上

\* 2017.2期実績に特別損失として、関係会社債務保証損失引当金繰入額4.4億円、関係会社貸倒引当金繰入額2.6億円を計上

\* ( )内は売上比率(%), <>内は増減率(%), 2017.2期修正予想は2016年10月5日発表の修正予想数値

# 修正予想（2016年10月5日公表）との差異要因

(単位:百万円)

	2017.2期		予想差異
	修正予想 (2016.10公表)	実績	
売上高	215,000 (100.0)	<b>214,305</b> <b>(100.0)</b>	△694 <△0.3>

## 【差異要因】

食材関連事業      △7.1億円

(単位:百万円)

	2017.2期		予想差異
	修正予想 (2016.10公表)	実績	
営業利益	3,700 (1.7)	<b>4,099</b> <b>(1.9)</b>	399 <10.8>

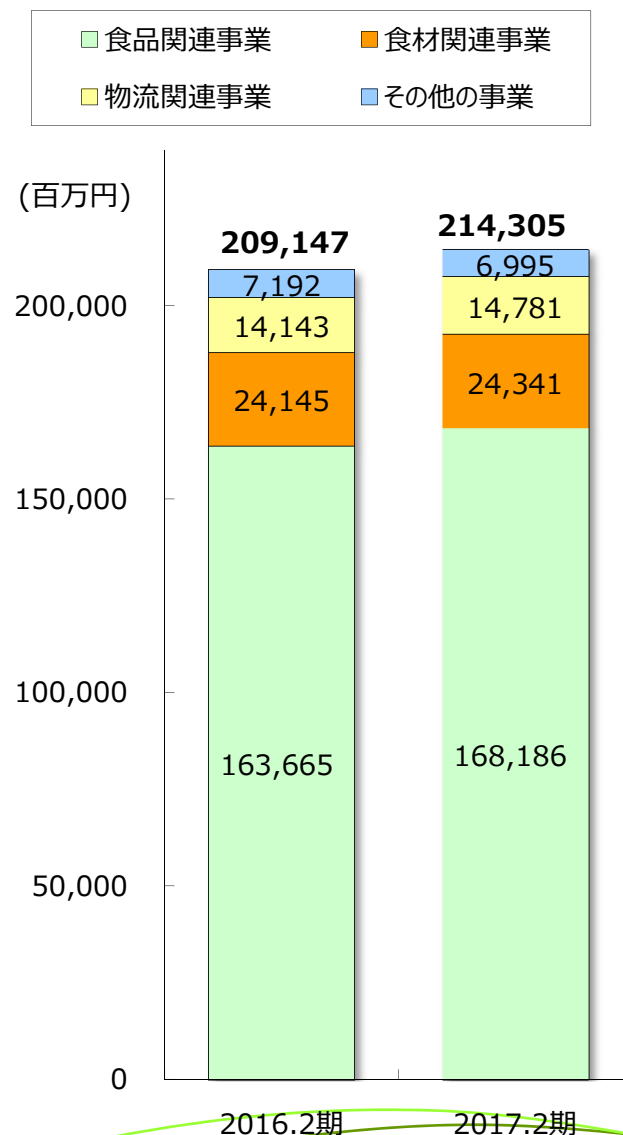
## 【差異要因】

食品関連事業      +3.2億円  
     内水道光熱費の減少      +2.0億円  
     内組織再編費用の減少      +0.7億円  
 その他の事業      +2.0億円  
 (食材、物流はおおむね予想通り)

\* ( )内は売上比率(%), <>内は修正予想比増減率(%), 2017.2期修正予想は2016年10月5日発表の修正予想数値

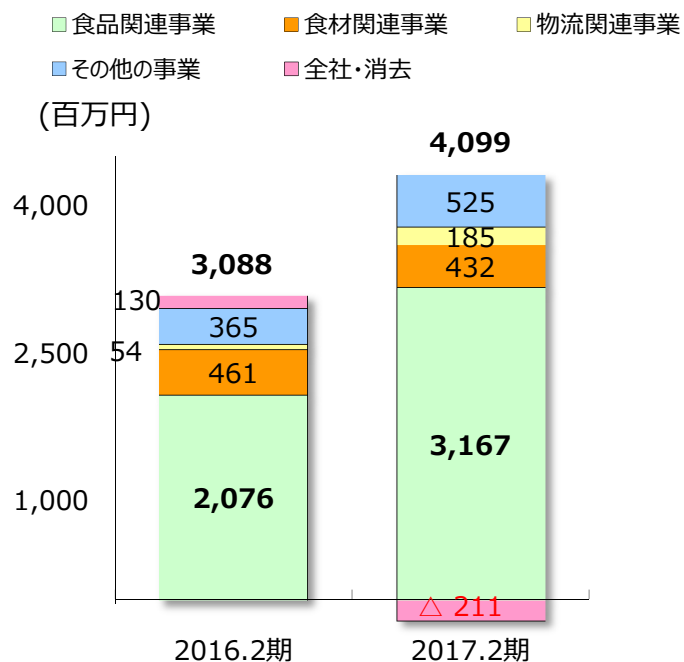
# セグメント別売上高の状況(前期比)

(単位:百万円)



	2016.2期	2017.2期	増減額 <増減率(>)>	増減要因
売上高合計	209,147	214,305	5,158 <2.5>	
食品関連	163,665	168,186	4,520 <2.8>	(+)納品店舗増、 チルド弁当売上伸長 (△)スーパー向け縮小
食材関連	24,145	24,341	195 <0.8>	(+)水産加工品の 取扱高増 (△)鶏加工品、海老類 の取扱高減
物流関連	14,143	14,781	638 <4.5>	(+)セブン-イレブン向け 共同配送事業の取扱 高増
その他	7,192	6,995	△196 <△2.7>	(+)人材派遣・業務 請負事業の売上伸長 (△)食品製造設備 関連事業における大型 案件の減

# セグメント別営業利益の状況(前期比)



(単位:百万円)

	2016.2期	2017.2期	増減額 <増減率(>)>
<b>営業利益合計</b>	3,088	<b>4,099</b>	1,011 <32.8>
食品関連	2,076	<b>3,167</b>	1,090 <52.5>
食材関連	461	<b>432</b>	△29 <△6.3>
物流関連	54	<b>185</b>	130 <240.6>
その他	365	<b>525</b>	160 <43.9>
全社費用・消去	130	△ <b>211</b>	△341 <->

**前期比 +10.1億円  
増減要因**

労務費の増加 △ 6.1億円

2017/2期特殊要因 △ 8.9億円  
(グループ再編に伴う退職給付費用△3.9、老朽化対策△5.0)

新工場 計 + 13.6億円

売上増減 + 1.8億円

水道光熱費の減 + 6.2億円

生産効率改善 + 2.3億円

その他 + 1.2億円

# 営業外損益・特別損益のポイント

(単位：百万円)

	2016.2期	2017.2期	増減
<b>営業利益</b>	3,088 (1.5)	4,099 (1.9)	1,011 <32.8>
営業外収益	680 (0.3)	647 (0.3)	△ 33 <△ 4.9>
営業外費用	432 (0.2)	442 (0.2)	9 <2.2>
<b>経常利益</b>	3,336 (1.6)	4,304 (2.0)	968 <29.0>
特別利益	300 (0.1)	— (—)	△ 300 <△ 100.0>
<b>特別損失</b>	1,821 (0.9)	708 (0.3)	△ 1,113 <△ 61.1>
税金等調整前 当期純利益	1,814 (0.9)	3,595 (1.7)	1,781 <98.2>
法人税等合計	385 (0.2)	1,314 (0.6)	929 <241.1>
<b>当期純利益 (当社株主に帰属)</b>	1,428 (0.7)	2,281 (1.1)	852 <59.7>

## 2016.2期 特別損失の内訳

### 減損損失

南アルプス工場・上田工場の減損、  
製造品目の見直しに伴う既存設備の減損等

18.2億円

## 2017.2期 特別損失の内訳

	フレボファーム	日鰻
関係会社貸倒引当金 繰入額 2.6億円	0.6億円	2.0億円
関係会社債務保証損失 引当金繰入額 4.4億円	4.4億円	—

\* ( )内は売上比率(%) <>内は増減率

# 連結貸借対照表のポイント

(単位：百万円)

【資 産】	2016.2期	2017.2期	増減	【負債・純資産】	2016.2期	2017.2期	増減
流動資産	30,235	36,316	6,081	流動負債	23,423	26,660	3,236
固定資産	47,099	47,561	461	固定負債	12,381	14,040	1,658
(有形固定資産)	(41,345)	(41,427)	(81)	(有利子負債)	(10,886)	(12,730)	(1,844)
(無形固定資産)	(689)	(920)	(230)	負債合計	35,805	40,700	4,895
(投資その他)	(5,064)	(5,213)	(149)	純資産合計	41,529	43,176	1,647
資産合計	77,334	83,877	6,542	(利益剰余金)	(25,281)	(26,858)	(1,577)
				負債・純資産 合計	77,334	83,877	6,542

## 資産合計－約65億円の増加

- 流動資産(現金及び預金等)の増加 : 約 60億円
- 固定資産(無形固定資産等)の増加 : 約4.6億円

## 負債・純資産合計－約65億円の増加

- 流動負債(未払金等)の増加 : 約32億円
- 固定負債の増加(長期リース債務等) : 約16億円
- 純資産(利益剰余金)の増加 : 約16億円



# 連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

(単位：百万円)

	2017.2期
税金等調整前当期純利益	3,595
減価償却費	4,797
引当金の増減額(△は減少)	1,299
受取利息及び受取配当金	△ 334
売上債権の増減額(△は増加)	△ 689
たな卸資産の増減額(△は増加)	△ 760
仕入債務の増減額(△は減少)	438
未払金の増減額(△は減少)	616
その他	792
<b>小計</b>	<b>9,757</b>
法人税等の支払額	△ 1,226
その他	240
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>8,770</b>
有形固定資産の取得による支出	△ 2,089
その他	△ 630
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 2,719</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 1,628</b>

引当金の増減額 内訳	
貸倒引当金の増減額(△は減少)	318
関係会社事業損失引当金の増減額(△は減少)	△ 53
関係会社債務保証損失引当金の増減額(△は減少)	444
賞与引当金の増減額(△は減少)	250
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	340

現金及び現金同等物に係る換算差額	20
<b>現金及び現金同等物の増減額(△は減少)</b>	<b>4,443</b>
現金及び現金同等物の期首残高	6,493
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>10,937</b>

# 2018年2月期 連結業績予想

(単位：百万円)

	2017.2期実績	2018.2期予想	増減
売上高	214,305 (100.0)	221,000 (100.0)	6,694 <3.1>
営業利益	4,099 (1.9)	4,600 (2.1)	500 <12.2>
経常利益	4,304 (2.0)	4,700 (2.1)	395 <9.2>
当期純利益 (当社株主に帰属)	2,281 (1.1)	2,500 (1.1)	218 <9.6>
E P S (円) (当社株主に帰属)	130.09	<b>142.55</b>	12.46
増減要因 (単位：億円)	<p>◆売上高 … 納品店舗増、チルド弁当伸長</p> <p>◆営業利益 …</p> <p>(+)新工場改善+3.9、増収効果+2.7、 前期特殊要因の解消+8.9(組織再編+3.9、老朽化対策修繕費+5.0)</p> <p>(△)償却費増△4.9、労務費増△3.8、本社移転関連費用△5.6</p>		

\* ( )内は売上比率(%), <>内は増減率(%)



# 中期的な課題および今後の施策

# 17/2期の総括①：取り組み

## ✓ 新工場の赤字削減

香川・浦和・岩手 計画通りの収支達成

## ✓ 国内食品事業を一本化

わらべや日洋の食品事業・わらべや関西・わらべや東海・わらべや北海道を  
一社に統合

## ✓ 生産効率の向上

開発と生産の一体運営  
安全・安心を担保するための修繕実施

## ✓ 職場環境の改善

働きがいのある会社にするための取組をスタート

# 17/2期の総括②：進捗

## 新工場の赤字削減

期初予想通りの進捗

	新工場利益 前期比（億円）
香川	+3.7
浦和	+2.9
岩手	+7.0
計	+ 13.6

## 国内食品事業を一本化

開発、生産、管理、収支計算 手法を一本化  
本社一元化によるPDCAサイクル速度アップ

## 生産効率の向上

開発と生産の一体運営

- ▶ 生産工程にあわせた規格⇔商品規格にあわせた生産
- 安全・安心を担保するための修繕
- ▶ 工場のメンテナンスを集中的に実施 5億円のコスト

## 職場環境の改善

働きがいのある会社にするための取組

- ▶ 育児休業規程をはじめ就業規則の内容見直し、改定
- ▶ グループ内イントラネットの再構築、タイムリーな情報共有

# 中期的な課題および今後の施策

## 課題

- ✓ 商品開発力、良品作りの強化
- ✓ 事業拡大に伴う新規投資負担
- ✓ 社員、パートタイマーの採用強化と定着率向上

## 施策

- ✓ 商品力のさらなる強化
- ✓ 原価管理強化の継続
- ✓ 生産体制の強化  
→既存工場の有効活用と効率的な投資の実現
- ✓ 省力化機械の開発、導入推進
- ✓ 本社移転
- ✓ 採用・教育課、ダイバーシティ推進室の新設等

# 施策：商品力のさらなる強化

売れ筋商品も継続的にリニューアル、『価値ある新商品』を開発し続ける



**圧倒的に差別化された商品が、わらべや日洋の絶対的な競争優位の源泉**

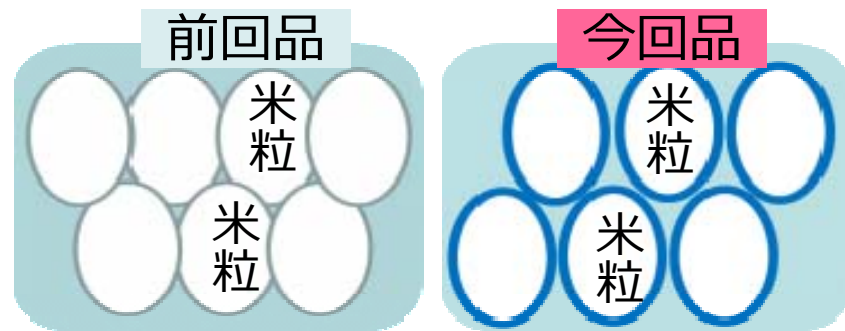
## 主な取組み

- ✓ ご飯をおいしくするチームの立ち上げ  
目標は『時間がたってもおいしいご飯！』：お米の見直し  
精米の管理基準の厳密化  
新しい炊飯技術への挑戦
- ✓ 新しい食事スタイルの提案：1食完結型から組合せ自由なビュッフェ型
- ✓ 新規カテゴリーへの参入：冷凍食品の開発強化（おにぎり、弁当、パスタ）  
7プレミアム(チルド)の開発体制の準備

# 商品力のさらなる強化：4/11おにぎりリニューアル

## 炊飯（新炊飯）

「粘り」と「粒立ち」を両立した新炊飯



**粘り，粒立ちアップ**

## 握り（新設備）

**型，プレス圧変更**

前回品

今回品



**ふっくら仕立て**

水分浸透度を **20%** 低減  
**バリア性** 素材配合



海苔の **パリパリ** 食感アップ



# 商品力のさらなる強化：その他の商品

- ✓ 直巻きおむすびシリーズ  
(具見せタイプ)



- ✓ チルド弁当：「THE セブンビーフカレー」



- ✓ 和菓子：「生どらシリーズ」



「豆大福」



# 施策：生産体制の強化

## 工場再構築委員会の立ち上げ（2016年10月）

### 1. チルド弁当生産体制

- ✓ **浦和工場**：チルド弁当一貫製造ラインを増設（2016年12月）
  - ✓ **相模原工場**：チルド弁当製造設備を新規導入予定(2017年10月)
- その他、チルド弁当対応を継続検討

### 2. 和菓子生産体制

- ✓ **デザート工場**：相模原工場第二を改称し、相模原工場から独立
- ✓ **名古屋工場**：和菓子製造設備を導入予定(2018年6月)

既存工場の有効活用と効率的な投資の実現

## 施策：省力化機械の開発、導入推進



- ・チルド弁当かつ丼の生産効率向上：  
カツカッター、外ふたおよび中皿自動かぶせロボットの導入



- ・サンドイッチの全自動化に向けて：  
具材自動充填機導入

- ・自動ラベル照合機の導入（一部おにぎり）と対象商品の  
拡大を予定

# 施策：本社移転

移転先：ヒューマックス新宿富久ビル

敷地面積 1280.16平米、鉄骨造12階建

移転の狙い：

- ✓ 商品開発における環境改善、強化、効率化  
→ 3つの開発拠点の集約、グループシナジーの発現
- ✓ グループ会社を1箇所に集約  
→ 業務効率化（管理部門の集約、要員の適正配置）  
→ グループ間コミュニケーションの活性化
- ✓ 職場環境の改善
- ✓ 社員、従業員の定着化
- ✓ 求人環境の改善（多摩地区から東京都心へ）

# 海外展開:海外事業部の設置(2017年6月)

## 米国

- ✓ WARABEYA USA (ハワイ) → 工場移転 → 生産能力拡大
- ✓ PRIME DELI (テキサス州、ダラス) → 米国本土での事業展開

## 中国

- ✓ 中国北京・天津 (北京旺洋食品有限公司) → 事業拡大

## その他アジア

- ✓ タイ CPALL/CPRAM
  - ✓ インドネシア
- } 技術指導

**海外事業部を設置し、リソースを投入  
→米国本土案件に注力**

# ESGの取り組み（持続的な企業価値の向上を目指して）

## ガバナンス（G）

### コーポレート・ガバナンスの強化

- ✓ 社外取締役の複数化  
（平成29年5月株主総会決議）
- ✓ 指名・報酬諮問委員会の設置
- ✓ 議決権行使プラットフォームの導入  
招集通知の英文化

# ESGの取り組み（持続的な企業価値の向上を目指して）

## 環境（E）

✓ 工場から廃棄される食品廃棄物の適正な処理

✓ 食品残渣の飼料化・肥料化

✓ 低公害車両の導入      17/2期導入率：39%



↓  
18/2期には45%を見込む

## 社会（S）

✓ 安心・安全への取組強化

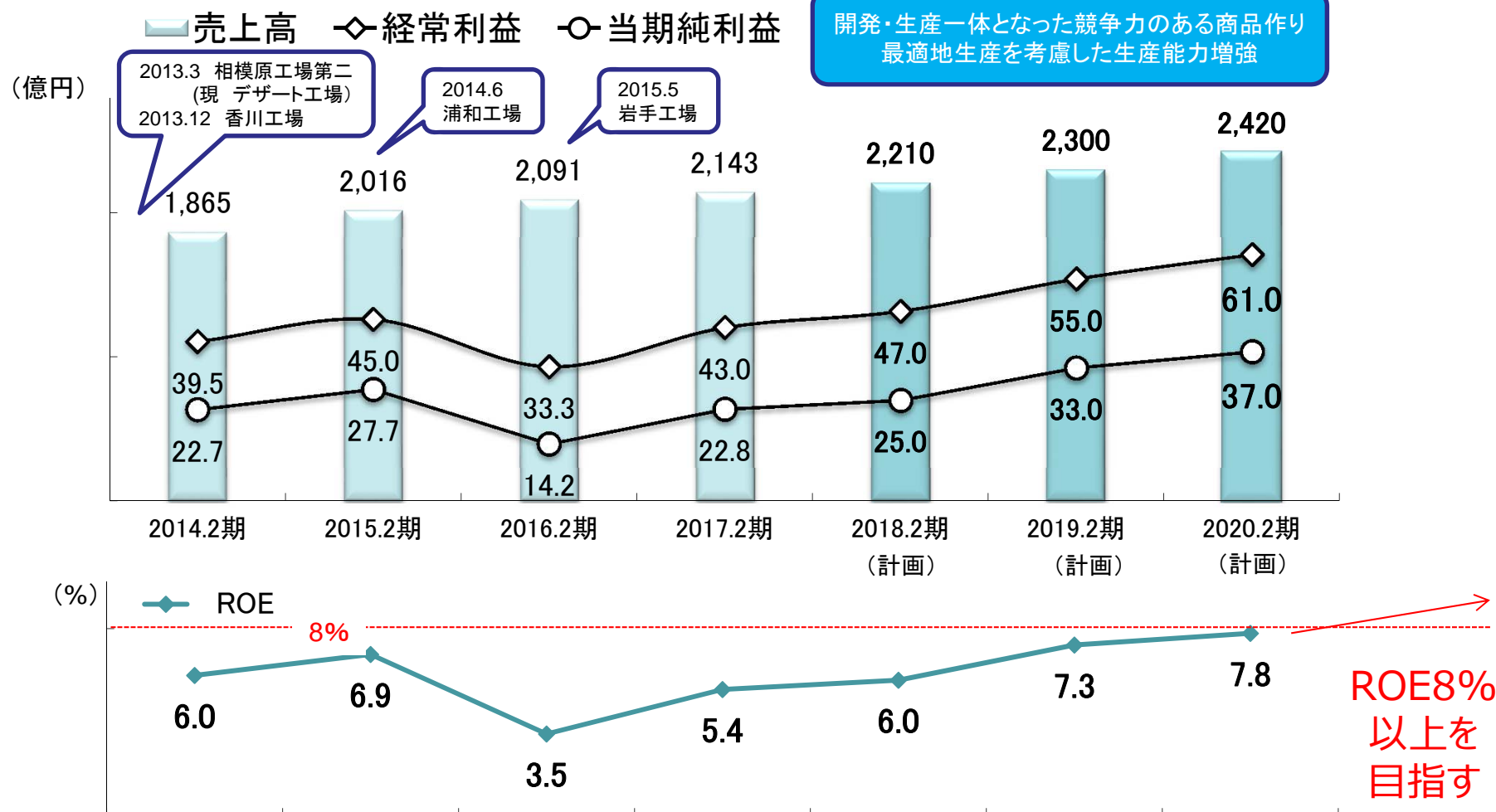
✓ 採用・教育課、ダイバーシティ推進室を設置

✓ 働きやすい職場作り

✓ 災害時救援物資提供に関する協定の締結

# 中期経営計画（連結）

最適地生産を考えた生産能力増強、成長分野（チルド弁当、和菓子）への投資により  
2020年2月期の経常利益は61億円





## グループ理念

私たちは「安全・安心」と「価値ある商品・サービス」の提供を通じて  
お客様の健康で豊かな食生活に貢献します。

**Warabeya**  
Nichiyo

**Warabeya**  
USA

**NICHIYO**

**Warabeya**  
Nichiyo HLDGS.

**Bestrans**

**PROSYSTAS**

**Socialink**

### その他関連事業

国内

株式会社 日洋フレッシュ

株式会社 サンフーズ横倉

株式会社 日鰻

株式会社 フレボファーム

国外

北京旺洋食品有限公司

北京日洋欣荣商贸有限公司